実験企画

# ドラフト候補に最新測定機器を使わせてみた！

## 「海老根優大（SUBARU）にBLASTを与えたら、新たな扉が開いた」

※この記事は広告ではありません

**今やアマチュア野球の現場では、最新の測定機器を活用して技術向上へとつなげている。そこでふと思いついた。計測機器の数値をもとにドラフト候補をインタビューすると、その選手の技術的なこだわりや思考力がうかがいしれるのではないか。打撃の計測機器・BLASTを購入したライターが、高卒3年目を迎える逸材・海老根優大（SUBARU）の元へと向かった。**

（取材・文＝菊地高弘）

### ドラフト候補の真価を測る

「変な取材ですみません」

オープン戦を終えたばかりの海老根優大に詫びながら、バットのグリップに小さなセンサーを取りつけてもらう。海老根は「いえいえ、大丈夫ですよ」と優しく答え、集球ネットの前に立った。これから置きティー、斜めからのトスティーで10スイングずつしてもらう。打撃計測機器・BLASTはグリップに取りつけたセンサーから、バットスピードなどのデータを計測する仕組みだ。

今回の実験企画の「被験者」として海老根を選ばせてもらった理由は、「すごい数値が出そう」と思ったからだ。中学時代からスラッガーとして名を馳せ、大阪桐蔭高では甲子園通算3本塁打を放つなどドラフト候補になった。SUBARU入社3年目の今季は、ドラフト解禁になる。身長182センチ、体重86キロの立派な体躯に、俊足・強肩の見事な運動能力。社会人の高いレベルで揉まれ、打撃技術に磨きがかかっているはず。そう予感して、SUBARU野球部に取材を申し込んだ。

海老根はBLASTについて「何回か使ったことはあります」と言いつつも、表情は少し硬い。何か口ごもったようにも見えた。そんな海老根の様子を気にしつつも、計20スイングを計測する。

間近で見る海老根のスイングは迫力があり、インパクトで「バカッ！」と破裂音が響き渡った。その打撃フォームは甲子園を沸かせ